

令和7年第12回（12月）山陽小野田市教育委員会会議定例会会議録

1 日 時 令和7年12月25日（木曜日） 14時00分 開会

2 場 所 市役所 第2別館会議室2

3 出席委員 教 育 長 長 友 義 彦 職務代理者 竹 田 佳 枝
委 員 河 村 芳 高 委 員 嶋 本 顕
委 員 末 永 育 恵

4 欠席委員 0人

5 委員及び傍聴人を除くほか、会議に出席した者の氏名

教育部長	藤 山 雅 之	教育次長兼教育総務課長	矢 野 徹
学校教育課長兼心の支援室長	升 谷 哲 也	埴生幼稚園長	福 間 久美子
学校給食センター所長	吉 村 匡 史	社会教育課長	山 本 修 一
中央図書館長	山 本 安 彦	歴史民俗資料館長	若 山 さやか
小学校長会代表	間 恵 満 貴	中学校長会代表	小 野 雅 弘
書 記	田 坂 優 香		

6 傍 聴 人 0人

7 議事日程

(1) 開 会

(2) 会議録署名委員の指名

(3) 報 告

(4) 休 憩

(5) 議 事

- ① 議案第33号 学校運営協議会の委員の任命について (学校教育課)
- ② 報告第13号 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（概要） (学校教育課)
- ③ 報告第14号 第2回山陽小野田市人権教育推進協議会の結果について (社会教育課)
- ④ 報告第15号 第2回山陽小野田市社会教育委員会議の結果について (社会教育課)

(6) その他

- ① 県費負担教職員の人事について (学校教育課)
- ② 県費負担教職員の兼職及び他の事業等の従事許可について (学校教育課)
- ③ 市職員の人事について (教育総務課)
- ④ その他

(7) 閉 会

開 会

それでは、定刻になりましたので、山陽小野田市教育委員会会議規則による12月の定例教育委員会会議を開催します。

本日は、委員全員出席しておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

会議録署名委員の指名

○長友教育長

会議録署名委員の指名をいたします。河村委員、末永委員よろしく願いいたします。

会議非公開の決定

○長友教育長

本日の議事日程「6.その他」の「(1)県費負担教職員の人事について」、「(2)県費負担教職員の兼職及び他の事業等の従事許可について」、「(3)市職員の人事について」は、特定の個人に対する審議であり、公開することにより、職員との信頼関係が損なわれると認められるとともに、人事の適正な執行に支障が生ずると認められます。

よって「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項ただし書きの規定により、非公開としたいと思います。

これに賛成される方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

ありがとうございます。全員賛成と認めます。それではレジュメに沿って進めます。

各課・館業務の報告

○長友教育長

私からは、12月8日(月)から10日水曜日までにありました、12月定例議会一般質問について報告します。教育委員会が関係する質問は、9日北永議員の平和教育について、10日白井議員の学校給食について、山田議員の不登校、体育館の空調の整備についてでした。まず、北永議員の平和学習についてです。子どもたちへの平和学習は適切に行われているかの問については、学校における平和学習は学習指導要領に基づいて適切に実施していること、続いて今後の「平和のつどい」の開催や「戦争体験や被爆体験の継承」については、戦争体験者の高齢化に伴い現在協力をいただいている団体等と相談しながら、戦争体験や被爆体験の継承に努めていくことをお答えしました。次に白井議員からは「地産地消」と「食育」の推進について、現在の状況等のお尋ねがありました。給食センターでは毎月19日の「食育の日」、年3回の「地場産給食週間」において地場産の食材を使用してい

ること、有機農法や自然農法で作られた農作物の学校給食への活用についての質問には、学校給食センターでは毎日一定の量（4,700食分）が確実に確保できること、また調理を時間内で完了するためにある程度規格の揃ったものを納入できること、コストが抑えられること等の解決すべき課題があることをお答えしました。最後に山田議員からの「本市の不登校児童生徒の状況」については、令和6年度は前年度にくらべ減少したものの、教育委員会では喫緊の課題として受け止めており、学校、教育委員会、関係機関が一体になって今後も取り組むと回答しました。大規模災害時の避難所として小中学校へエアコン設置については、事業化にあたって非常に大きな事業費が想定されることから十分に慎重な議論が必要であること、一方で国の交付金の対象期間が令和15年度までとされていることから、時期に遅れが生じないように意思決定する必要があると回答しました。

私からは以上です。

それでは、私の報告につきまして何かご意見ご質問はございませんか。

（「ありません。」という声あり）

よろしいですか。

それでは、藤山教育部長お願いします。

○藤山教育部長

私のほうから2点報告いたします。

最初は、12月議会中に開会された令和7年度一般会計予算決算常任委員会総務文教分科会での補正予算等の審議内容についてです。

授業支援ソフト更新事業の債務負担行為補正で、ソフトの更新は市内業者優先で入札が行われるのかどうかについて質疑があり、必ずしも市内業者優先ではなく、監理室に登録のある業者の中からランク等を見て業者を選定する指名競争入札で実施することを答弁しております。その他にはさしたる質疑はなく、教育委員会部分の補正予算を含む、議案第88号令和7年度山陽小野田市一般会計補正予算（第7回）については可決されました。

次は教育委員会所管の規則等で規定しております様式の押印廃止についてです。資料の説明をいたします。黄色や緑色のマーカーがある一覧表をご覧ください。

1枚目と2枚目は国の法令の具体的な手続内容を規定している施行細則、3枚目が学校の管理規則、4枚目が学校職員の服務規程となっており、それぞれ県内他市の状況をまとめております。一番上の行でどこの市の規則、規程なのかを確認できます。一番右の縦の列、表によっては右下の縦の列が山陽小野田市となっております。それぞれの表では様式ごとに同じ横の行でまとめております。

黄色の箇所は押印を求めない様式、色がついていない箇所は押印を求めている様式、列をまたがって緑色のマーカーをしているところは、押印を求めている市が多い様式です。一見してわかりづらい表ですが、委員の皆様には、それぞれの規則、規程にたくさんの様式があって、山陽小野田市に色がついていない箇所が多く、押印を求めている様式が多いということを視覚的に感じ取っていただければと思います。教職員が子どもたちと向き合える時間を十分に確保できるよう、総合的な働き方改革を進めていく必要があります。教育委員会としましてはその一環として業務の改善を少しでも行うべく、教育委員会所管の規則等で規定しております様式の押印、例えば委員会の代表者である教育長印、教職員の私印の押印を廃止することを検討してまいります。新型コロナウイルス感染症への対応として、対面での申請手続きを極力なくすよう、テレワークの導入は図られるよう押印の廃止を進めた時期が以前本市でもありましたが、今一度検討してまいりたいと考えております。場合によっては、教育委員会会議定例会で議案として御審議をお願いすることになるかもしれませんのでよろしくお願いしま

す。

私の方からは以上になります。

○長友教育長

はい。ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

○河村委員

はい。

○長友教育長

はい、河村委員。

○河村委員

よく見つけられないのですが、押印を廃止したときのデメリットは何かあるのでしょうか。

○藤山教育部長

押印を廃止したためのデメリットですと、その書類の真正性を担保しているかどうかということですね。まず、押印するという事は手続き上の決裁が採られているということが保証されます。また、押印する際には、職印を所管している課長他の確認が必ずあり、しっかりと内容を確認して押印しているという真正性の担保になります。例えば分かりやすいものと卒業証書や、往來文書ですね。これで偽りの申請をすることは考えにくく、デメリットがあまりないというものは押印を廃止しても構わないのではないかと思いますので、以前見直しをしたところではありますが、少しでも手間をとらせないように再考したところであります。

○河村委員

目を通したという証拠を残すためのものということでしょうか。

○藤山教育部長

そういうことであります。

○河村委員

押印廃止の際は、サインも何もなくなるということでしょうか。目を通したことのチェックは入らないのでしょうか。

○藤山教育部長

押印廃止になった公文書は、その文書を見ただけではチェックが入ったかどうかはわかりません。

○河村委員

わかりました。

○長友教育長

よろしいですか。

今、公務DXにパイロットとして取り組んでいる中で、押印はなるべく廃止にするという方向性が出ておりますので、それに従って藤山部長が進めているところであります。言われるとおり、本当にその人が出したのかというのはあるので、いろいろ細かく検討してみました。それらは必ず複数の目が入らざるを得ない文書で、個人から直接教育委員会に提出されることはなく、校長を通じて提出という動きで、お返しするときも校長にお返しをしますので、校長を介して書類を個人にお返しすることで真正性が担保されるのではないかとこのところを一つとして検討したいと思います。

○河村委員

はい。わかりました。

○長友教育長

はい。よろしいですか。

それでは、続きまして矢野教育次長兼教育総務課長お願いします。

○矢野教育次長兼教育総務課長

はい。教育総務課からは、年次当初に予定していました工事の進捗状況についてご報告いたします。

まず、小野田小学校屋内消火栓ポンプ取替工事については11月中に完了検査を受けまして引き渡しを終えております。同じく赤崎小学校管理特別教室棟外壁改修工事につきましても、11月中に完了検査を終え、随時引き渡しを終えています。

トイレ洋式化についてですが、厚狭小学校・高千帆小学校・小野田小学校・須恵小学校の小学校4校を改修する予定です。現在契約を終えた状態で、今後学校と調整しながら工事を進める予定です。中学校におきましては、高千帆中学校・竜王中学校についても契約を終えている状態です。残る小野田中学校につきましては、学校と設置場所等の調整をした後に契約、実施という予定です。以上が、工事の進捗状況でございます。

続いて、共催後援について報告いたします。お手元の資料をご覧ください。こちらにつきましては、11月1日から11月30日までの間に共催又は後援を承認したものでございます。学校教育課が所管するものについては、後援1件、共催1件、社会教育課が所管するものについては、後援2件となっておりますので、ご確認をお願いします。

最後に寄附でございます。寄附採納の申込が1件ございます。塩田賢二様から学校図書の充実ということで、一万円の寄附金を頂いております。こちらご報告いたします。

教育総務課からは以上です。

○長友教育長

はい。それでは、ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

工事は今次長が言ったもので今年度は終わりということですか。

○矢野教育次長兼教育総務課長

細かい改修工事はまだ残っておりますので、そちらについては引き続き学校の営繕要望等に基づいて、実施をしていく予定です。年次当初に予定していた工事につきましては、この時点で終了となります。

○長友教育長

はい。ありがとうございます。その他よろしいですか。

それでは、升谷学校教育課長兼心の支援室長お願いします。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい。学校教育課から4点報告いたします。

1点目は、教育者表彰についてです。教育者表彰は、学校教育の振興に特に顕著な功績のあった教職員をたたえるもので、文部科学大臣により授与されます。昭和34年から行われているものです。本年度、県内において小・中・高等学校からそれぞれ1名の方が選ばれましたが、そのうち2名が本市在職の校長先生という大変喜ばしい結果となりました。高千帆小学校の下瀬昌巳校長先生と、高千帆中学校の高来英行校長先生が授与され、私たちにとっても大きな励みとなりました。

表彰式は12月3日（水）に文部科学省講堂にて行われました。お二人の校長先生方のこれまでのご尽力に、心より敬意と感謝を表したいと思っております。

2点目は、授業力向上実践研究事業についてです。11月28日（金）に、県教委の事業である「山口県授業力向上実践研究事業」に係る授業研究会が、埴生小中学校で開催され、教職員のほか、地域

の方や大学生など約60名が参加しました。

「9年間の系統的な指導と、主体的に学びを深める指導の工夫」を主題に、児童生徒が主体的に自ら課題を解決する力の育成に向け、全ての教科において「問いの設定・情報収集・整理分析・まとめ表現」の4ステップによる探究的な学びのプロセスを日々の授業に導入し、研究を進められました。

当日は、小学1年生の算数科、4年生の外国語活動、中学1年生の国語科、3年生の数学科の授業が公開されました。

授業研究会の開催に向け、埴生小中学校では各研修グループで「模擬授業」を重ね、教員自らが児童生徒役となって課題や指導の工夫について検証するなど、学校全体で準備を進めていました。

当日の資料に、埴生小中学校の大田校長先生が、『失敗の本質』という書籍を引用し、「過去の成功体験に縛られず、学び続ける教師でありたい」というメッセージも示されていました。実際に公開授業の後も、先生方が主体的に研修を継続していることは、本研究の成果の一つです。

今回の実践を、学力向上担当者会議等で共有し、市内各校の授業力向上につなげていきたいと考えております。

3点目です。リーディングDXスクール事業についてです。

先月、文部科学省委託の「リーディングDXスクール事業」に係る公開研究会を、小野田中学校と小野田小学校で開催しました。

11月12日（水）に開催した小野田中学校では、「自ら学び、判断し、表現する生徒の育成」を主題に、1・3年生の社会科と2年生の保健体育科の授業公開を行い、端末に含まれている汎用的なツールを活用した授業提案がされました。山口大学の鷹岡教授からVUCAの時代と生成AIが身近にある時代における学びの在り方についてご示唆いただきました。

11月28日（金）に開催した小野田小学校では、「協働的な学びを通して、自らの考えを深める子の育成をめざして」を主題に、4年生の音楽科の授業公開を行い、実技教科におけるアナログとデジタルの棲み分けについて考えさせられる授業提案となりました。文部科学省指定の学校DX戦略アドバイザーである、さいたま市立内谷（うちや）中学校の宮内教頭先生から、教科指導のデジタル化や情報活用能力育成についてご指導いただきました。

両校の研修会において、市内外の教育関係者が多数参加し、端末活用の日常化による授業改善と校務DXの両立に向けた本市の取組を広く発信する機会となりました。今回の成果を市全体へ波及させ、さらなる教育DXの推進に繋げてまいります。

1月29日（木）に、須恵小学校においても、リーディングDXスクール事業に係る研究会を実施する予定です。

4点目です。教育支援センター（心の支援室）の活動状況についてです。

ふれあい相談室は、この1か月間も落ち着いた雰囲気に入れられ、特に大きな変化もなく穏やかに活動しています。先月、教育長と一緒に小野田のふれあい相談室にお邪魔しました。ちょうど期末テストの日で、中学生は試験問題に真剣な面持ちで取り組んでいました。静かな緊張感が漂っていたので、すぐにその場を離れました。

中学3年生は、進路実現に向けて前向きに努力しており、支援員や学校とも連携しながら、目標に向かって着実に歩みを進めています。

ひと月に1回開催される連絡協議会においても、子どもたちの頑張りについての報告がありました。

以上で、学校教育課からの報告を終わります。

○長友教育長

はい。それでは、ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

○河村委員

はい。

○長友教育長

はい、河村委員。

○河村委員

はい。授業力向上実践研究事業というのは、先生のための事業ですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい。もちろん先生のためなのですが、授業力を上げるということは子どもたちのためになるということなので、主体的な深い学びに向けて日々教員が授業研究をしているところでございます。

○河村委員

ほかの学校の教員も参加されるんですね。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい、そうです。参加、研究して学校に持ち帰ります。

○河村委員

地域の方や大学生も参加しているということですが、その授業が終わった後に話し合い等はあるんですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

一応研究協議で授業をした者が、こういう思いで授業をしたという報告があって、授業の中身について協議をし、指導助言者がいらっしゃって、その中で総括される形になります。

○河村委員

総括されるんですね。実際、大学生とか地域の方と意見交換することはないんですね。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

そうですね。私がこの会議自体に出席していなかったもので、流れが分かるものは手元にはあるのですが、実際にその場がどういう流れだったかというのは説明することはできません。

○河村委員

やっぱりプロばかりが集まったの話になるので、地域の方や大学生は見え方が違うと思うので、そういう時間があってもいいのかなと思います。これは年に何回あるんですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

こちらは県の事業になるので、年に1回になります。

○長友教育長

学校が地域の人と一緒にすることなのですね。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい。学校運営協議会とかで、このような中で授業と一緒に受けてみたり、実際に学校の授業を見学して、その後に学力向上に向けた熟議を行ってみたりとか、学校間によって少しやり方に違いはありますが、子どもたちの授業を見る機会というのを設けております。

○長友教育長

ちょうど校長先生がお二人いらっしゃいますので、意見をお願いします。

○小野中学校長会代表

竜王中学校の小野です。本校においては、「ユニット型研修」をやっているんですけど、「知・徳・

体」の部会があります。その部会ごとにユニットを組んで教員と地域の方が配置されているんですけど、その部会ごとに授業研究を行ってお越しいただいてご意見をいただく、もしくは大の授業研究としては、ユニットを解いて全体で授業について検討し合う取組をしています。それによって、教員の目線ではわからない、気付かないことに気づかされることが多々ありますので、有意義な会議となっていると思います。

以上です。

○長友教育長

はい、よくわかりました。

間恵校長先生お願いします。

○間恵小学校長会代表

はい。須恵小学校の間恵です。小学校の方も今、竜王中学校の小野校長先生が言われたように学校運営協議会の委員さんに来ていただいて、「ユニット型研修」を行うことがあります。先ほど言われていましたが、授業を見ていただくだけではなくて、その後一緒にその授業についての研究協議を行い、付箋に意見を書いて貼っていただいたりします。面白いのは、私たちは授業を研究している立場での意見をしますが、地域の方や保護者の方というのは違った目線で意見を下さいますし、中には「先生方が45分の授業をするために、こんなに研究されているとは知りませんでした」というご意見をいただくことがありますので、有意義な会議だと思います。

以上です。

○長友教育長

厚狭中学校は、さらに同じ学年の中学生をユニットに入れて、中学生が隣のクラスの授業を客観的に見て、その後先生方と一緒に、「この場面はこのように言ったらどうでしょうか」というような生徒側からの提案等の取組を試行しています。このような研修は河村委員の指摘のようにプロばかりの審議ではなくて、いろんな多目的な視点から見ていただくことを目的としています。

○嶋本委員

はい。

○長友教育長

はい、嶋本委員。

○嶋本委員

はい。リーディングDXスクール事業についてですが、小野田中学校で開催された授業公開で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化を目指しているということで公開授業、例えば会議とかでICTを活用した事業をここで公開しているんですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

そうですね。

○嶋本委員

山陽小野田市のICTを活用した事業は改革を進めるほうなのですか、それとも公開しながらしっかり指導を受けてさらに進歩につなげていくものなんですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

山陽小野田市自体はICTの活用が進んでいます。今回のリーディングDXなんですけど、これは文科省の委託を受けてやっているものです。実際に子どもたちのタブレット端末に入っているアプリやソフトを使って、どの学校も入っている物なので、文科省はこれを全国に広めるためのモデル校と

してやっているものです。市が引き受けて、まずは小野田中学校区で公開授業をして、他の学校の先生方が見に来られて自分の学校へ持ち帰るということをやって公開して広めているところです。特にこの小野田中学校区の3校は県外の先進校を見学に行ったりとか、研修を受けて帰っていただくことを今やっているところです。

○嶋本委員

内容で言うと、算数や国語でも同じようにICTを活用した授業はあるのでしょうか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

場面に応じて活用しております。今回の小野田中学校の音楽の授業もそうだったんですけど、アナログの部分が子どもたちにとって深い学びにつながるという場面もありますので、そのあたりを教員が読み取って、より最適な手法を子どもたちに提供しているところです。

○長友教育長

リーディングDXスクール事業は今山口県では本市だけで、それからGoogleパートナーシップ主体も山口県では本市となっています。積極的に進めていければと思います。

よろしいですか。それでは、福間埴生幼稚園長お願いします。

○福間埴生幼稚園長

はい、埴生幼稚園です。園の様子についてご報告いたします。

昨日、24日に終業式を行い、全園児元気に2学期を終了することができました。

初めに、11月29日に行われた保育発表会についてお話しします。保護者の方や祖父母、きょうだい児などたくさんの方に来ていただき、大勢の方々に見守られ温かい雰囲気の中、無事に終えることができました。子どもたちは、緊張が見られたものの笑顔で終えることができました。年長児の成長は素晴らしく、自信をもって自分を表現していました。

次に埴生小学校の持久走の応援と秋祭りのことについてお話しします。保護者に配信したものを資料として用意しています。合わせてご覧ください。12月2日に行われた埴生小学校の持久走の応援に年中児と年長児で行きました。小学生の走りを見て一生懸命応援する姿が見られました。10時過ぎからは1年生に秋祭りの招待を受け、教室へ移動し、秋の自然物で作ってある遊び（迷路、的あて、くじ引きなど）で遊びました。初めは緊張が見られましたが1年生が優しく説明をしてくれるので段々と楽しんで遊べるようになりました。遊び終わった後は、地域の方が準備してくださった焼き芋を1、2年生と一緒にいただくことができました。子どもたちは帰りながら「楽しかったね」と言っていました。

続いて、父母会主催の教育講演会についてです。24日の終業式の後に行いました。県庁主催の『家庭の元気応援出前講座』の中から父母会の方が「わがやのやくそく大作戦」のテーマを選ばれ、県庁の家庭教育支援班の来嶋さんが話をしてくださいました。グループワークをしながらの話で和やかに時間を過ごすことができました。約束とルールの違いについての話をされ、また、どのように約束をしたらよいかのアドバイスをいただき大変参考になりました。

最後に、糸根神社のちょうずや（手水舎）の飾りについて地域の方からお話をいただき、園児が作成することになりました。あおい保育園と交代に作成をしますが、お正月からは埴生幼稚園の園児の作品が参拝者を迎えてくれます。糸根神社にお越しの際は、ちょうずやの飾りにも目を向けてみてください。飾りなんですけど、インスタに上げるのが間に合わなくて持って来たんですけどとてもかわいい作品が出ています。神社でお出迎えするためにたくさん飾るので、ぜひお参りにいらしてください。

以上です。

○長友教育長

それでは、ただ今の報告に関しまして、何かご意見ご質問はございませんか。

○末永委員

はい。

○長友教育長

はい、末永委員。

○末永委員

埴生小学校の持久走大会の応援に園児が行かれたということなのですが、これは前から行かれてたんでしょうか。

○福間埴生幼稚園長

初めてです。小学校に慣れるために行けたらいいなと思っていたので、園の方から小学校の方をお願いしたら、いいよ、声をかけてくださったので、応援に行きました。

○末永委員

歩いて行かれたんですか。

○福間埴生幼稚園長

はい、年中と年長で歩いて行きました。

○末永委員

とてもいい行事になったんじゃないかなと思います。埴生幼稚園もありますし、年々このような連携増えているのでいいなといつも感じています。その応援は小学生もすごく喜ぶと思いますし、さらにその後の行事につながるというのはすごくいい流れだなと思ったので、色々な校区でもこういう流れで交流があるといいなと思いましたので、ぜひ他の校区に広がるといいなと思います。ありがとうございます。

○福間埴生幼稚園長

はい、ありがとうございます。

○長友教育長

はい、ありがとうございます。その他よろしいですか。

それでは、続いて学校給食センター所長お願いします。

○吉村学校給食センター所長

学校給食センターから6点報告します。お手元の資料をご覧ください。

1点目は、巡回指導についてです。栄養士3名が7校10か所で実施しました。

2点目は、親子食育料理教室についてです。年4回実施しておりますが、今回3回目で「親子で楽しくみそづくりとかんたんクッキング」をテーマに親子食育料理教室を実施し、親子料理教室では年4回実施している中で、今回インフルエンザ等で2組の欠席がありましたが、8組18人が参加されました。株式会社シマヤの方をお招きして「みそづくりについての講演」と「かんたんクッキング」を実施し、みそづくりについての講演では、みその歴史・みその種類、山口県では麦みそが主流である等、子どもたちの興味がある講話でした。

また、シマヤの方と一緒に「麦みそづくり」を体験しました。冬の時期だと3か月後には食べられるということだったので、子どもたちは自分が作ったみそを大事そうに抱えて帰り、3か月後にはみそ汁を作りたいという意見がありました。

また、「かんたんクッキング」では、たまごと塩こんぶのおにぎり・おかカルむすび（おかか、たくわん、チーズ）等を作り、子どもたちは最初難しいという意見もありましたが、上手くできて家でも作ってみたいという意見もありました。この機会に食育についての興味を持つ機会になったのではないかと思います。

3点目です。12月24日（水）消防訓練を実施しました。実施内容については、火災発生した事案を想定し、避難ルートの確認、消火栓・警報機の場所を確認し、初期消火の対応について訓練いたしました。

4点目は、催告書の送付についてです。年3回催告書を送付しておりますが、4月・9月・12月の3回の内、今回12月分を発送いたしました。毎回だいたい133件、900万円分の催告書を郵送にて実施しております。12月末を目処にこちらの方に納付をお願いしておりますが、それなりの成果が見られています

5点目は、イベントのクリスマス献立として、セレクトデザートというのを毎年実施しております。今回のセレクトデザートについては、チョコレートケーキ・ストロベリーケーキ・みかんジュレの3つ、アレルギーの方にはチョコレートケーキを用意しているんですけど、今回はチョコレートケーキが多かったようです。

最後に学校給食についてですが、昨日の12月24日に終了いたしました。3学期の給食は1月8日から開始します。

報告は以上です。

○長友教育長

はい。ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

よろしいですか。それでは、山本社会教育課長お願いします。

○山本社会教育課長

社会教育課から報告いたします。

初めに、須恵地域交流センターが第78回優良公民館表彰を受けられましたのでご報告いたします。これは、文部科学省が公民館や公民館と同等の社会教育活動を行う施設のうち、特に事業内容・方法等に工夫を凝らした活動を行い、その活動を活かして、ひとつづくり、まちづくり、地域づくりに大きく貢献している施設に表彰されるものです。今回全国で60館表彰を受けられております。

次にふるさと文化遺産についてです。今年の市の10大ニュースの1つに上がっておりますふるさと文化遺産「コーストウォーク～海岸からみる情景～」ですが、11月29日に市観光協会が主催するコーストウォークが開催されましたので、職員が現地へ赴き、連携を図ってまいりました。当日は寒い朝でしたが、受付でふるさと文化遺産を紹介するチラシと、コーストウォーク沿岸に点在する史跡等を記したマップを参加者291人の方に配布するほか、マップに厚狭川河口付近上空をドローン撮影した映像が見られるようにQRコードを記すなど、道中楽しんでいただくように工夫いたしました。これからも、コーストウォークに限らず、市民向けの出前講座などでふるさと文化遺産のPRに努めてまいります。

次に人権啓発についてです。お配りした「令和7年度人権標語・ポスター優秀作品について」をご覧ください。12月6日、市民館でヒューマンフェスタ山陽小野田が開催されました。人権に関する啓発作品として、標語とポスターを募集し、審査の結果、優秀賞に選ばれた4人の方の表彰を行いました。

表彰後にお一人お一人から作品を作ったきっかけと作品を通して伝えたいこととお伺いしました。

抜粋して申し上げますと、「いじめに気付くこと、いじめられている人に寄り添う気持ちを一人ひとりが育ててほしい」「人権と聞くと、差別や戦争など世界的な問題を浮かべるかもしれないが、親しいなかで、無意識に誰かの人権や心を傷つけていないか、相手を信頼しているからこそ、これくらい大丈夫だろうと言いつつ放った言葉が、相手を深く傷つけることがあるかもしれないと思って作品を作った」「どの人も、どの動物も命はみんな平等で大切であることを伝えたい」「誰かを大切にしたい気持ちを持てば、みんなでやさしい社会を作ることができる！ということを知りたい」と、みなさん答えていただきました。

最後に20歳のつどいについてです。令和8年1月11日に不二輸送機ホールで記念式典を開催いたします。

対象は、平成17年4月2日から平成18年4月1日生まれの方で、令和7年12月18日現在で、市内在住者787人が対象者となっております。

記念撮影、市内事業所にご協力いただき名産品抽選会を行うほか、市自治会連合会が行うタイムトレジャー☆20（小学校6年生卒業時に20歳の自分宛に書いた手紙）の受け渡しを行う予定となっております。

報告は以上でございます。

○長友教育長

それではただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

よろしいですか。それでは、山本市立図書館長をお願いします。

○山本中央図書館兼厚狭図書館長

市立図書館から報告いたします。市立図書館関係資料をご覧ください。

中央図書館、11月30日に「第12回図書館フェスティバル」を開催いたしました。昨年よりは来館者も多く賑わっていたと思います。

12月7日「さんようおのだ本まつり」図書館創発会議主催ですが、市内で自費出版されている方々の展示、絶版本等の展示を行いました。初めての開催でした。

12月14日、山口市内在住の「画家 保手浜孝さんの講演会」、「工藤直子さんの『のはらうた』に魅せられて」を開催し、会場はほぼ満席になりました。

12月21日「【第100回記念】持ち寄り本カフェ」を市民活動センターで開催いたしました。100回記念ということで、wakayama読書部と一緒に開催いたしました。

【資料展示】ですが、「となりの本棚大公開！自宅の本棚写真展」を現在開催中です。これは自宅の本棚の写真を撮ってそれを見ていただき参考にさせていただこうというものです。会期が12月21日までとなっておりますが、作品が増えたため来年1月末までとさせていただきますこととなりました。

《12、1月行事予定》ですが、1月17日「サビエル高校留学生ギャラリートーク」が行われます。それぞれの留学生のお正月の過ごし方やそれぞれ山陽小野田市にどのような印象を持っておられるか等、そのような話が聞けるのではないかなと思っております。

厚狭図書館《11、12月行事報告》ですが、12月20日、山口東京理科大学の学生たち来ていただいて『山口東京理科大学イベント「スライム&人エイクラづくり教室」』が行われました。

そして本日お配りした資料になりますが、2030年代の図書館と情報サービス第1巻「公共図書館の未来—市民参画・連携・再編・メタバースの観点から—」発行は日本図書館情報学会、こちらが電子版ですが12月15日に公開されました。裏面をご覧ください。「公立図書館における市民参画のあり方—山陽小野田市立図書館における図書館創発会議を中心に—」が掲載されました。執筆者は

岩井千華さん國學院大學栃木短期大学准教授です。全文はページの関係で載せておりませんが、どなたでもご覧いただけます。全国の図書館の研究者や図書館員等がこれを見ることになると思います。中央図書館での活動が全国に示される一つのきっかけになればと思っています。

図書館からは以上となります。

○長友教育長

ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

それでは、若山歴史民俗資料館長お願いします。

○若山歴史民俗資料館長

資料をご覧ください。初めに企画展についてご報告します。12月23日に企画展「戦争の記憶2025」が終了しました。最終日には、小野田小学校6年生28人が1時間かけて戦時中の市内の様子や学校について学びました。アンケートでも、60歳未満の回答が多くあり、「戦争を自分の地域・学校などの展示をとおしてとても身近に感じた」「日々の生活の中のじわじわくる圧力をみつめる視点が良かった」「大変意義深い企画」「よくまとめられてわかりやすかった」といった感想がありました。親子での見学も目立った企画展で、期間中の入館者数は1,290人でした。

次に、埴輪づくり体験教室についてです。11月29日に小学生以上を対象として行い、15人(大人8人、子ども7人)が参加しました。新聞社の取材があり新聞掲載されました。

12月3日には、埴生の放課後子ども教室でも埴輪づくり体験をしました。埴生と埴輪の漢字には「土」の意味があることなどに興味をもったようでした。始まる前に、管理員のみなさんが完成できるか心配されていましたが、集中して作っており、全員完成させることが出来ました。

最後に、1月24日(土)に行う歴史講演会についてです。お配りしているチラシをご覧ください。『本能寺前夜』『関ヶ原前夜』『毛利輝元』などの著書で有名な光成準治先生に「厚狭毛利家文書にみる16世紀の毛利氏と豊臣政権」と題してご講演をいただきます。光成先生は、以前から「厚狭毛利家文書」の調査をされており、NHKの「英雄たちの選択」という番組の取材で撮影に来られたのをご縁にこの度ご登壇頂くこととなりました。現在、歴史民俗資料館では、先生と打合せをさせていただきながら講演会の内容にあわせた「厚狭毛利家文書」の展示作業を行っています。年明けから見学できるようにいたします。

資料館からは、以上です。

○長友教育長

それではただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。よろしいですか。面白そうな講演会なので、発信の方をしっかりとっていただきたいと思えますし、教育委員会各課も場合によってはいろんなところで発信をしてもらいたいと思えます。

○嶋本委員

はい。

○長友教育長

はい、嶋本委員。

○嶋本委員

ご報告いただいたこととは関係ないんですけど、山陽小野田の教育史の観点から毛利勅子さんの功績というか歴史というか、そういうのが今にどのようにつながっているのかをまとめて市民に周知することがすごく大事なんじゃないかと思っていますよ。先ほどどこかのお寺で資料の整理が行われたと聞いているんですけど、そういうところで突き詰めて、ある程度しっかりしたなにかを伝える

形を作って市民に周知してあげればなと思います。よろしくお願いします。

○若山歴史民俗資料館長

ありがとうございます。山陽小野田市の教育の歴史については、やっぱり毛利勅子さんという存在は欠かせないものでして、理科大生もこの前一緒に資料の整理をされたということで、資料館の方でお手伝いと言いますか、準備の仕方というのをご協力させていただきました。市の教育史というものは過去に企画展をしております、少しずつ資料をまとめたり整理して、その都度公開するようにしております。今後も毛利勅子含め、そういった調査をして公表できるようにしていきたいと思います。

○嶋本委員

ありがとうございます。

○長友教育長

よろしいですか。

それでは、小学校長会から須恵小学校間恵校長先生お願いします。

○間恵小学校長会代表

はい。小学校長会から3点ご報告いたします。

1点目は、2学期の終了についてです。長い2学期も昨日の終業式を持って無事に終了いたしました。2学期は78日間の授業日数がありましたが、インフルエンザの流行もあり、学級閉鎖を行った学校もありました。本校でも2学級が学級閉鎖の措置を取りましたし、担任が罹患し、お休みすることもありました。しかし、おかげさまで順調に学校行事や教育活動を進め、修学旅行や宿泊学習・学習発表会・持久走大会等の大きな行事があった2学期でしたが、ほぼ予定通りに実行することができました。

2点目は、先ほどもお話ししましたが、各学校の持久走大会の取組についてです。ほとんどの小学校が11月下旬から12月上旬にかけて校内持久走大会を開催しております。持久走大会に向けての健康相談を行い、中間休みの駆け足タイム・体育の時間に数回試走を行い児童の体力向上と目標に向けて頑張る心の育成を目指して取り組んでいます。どの学校もあると思いますが、保護者の皆様の協力も非常に大きく、各学年の試走のときには、見守りボランティアとして毎回数名の保護者の方々が協力してくださいます。本校も8日間の試走に、延べ126名の保護者の皆さんがご協力していただきました。また、持久走大会本番の日には、たくさんの保護者の皆様が来校され、温かい声援を送っていただきました。育友会保体部の役員の皆様も、警備や保護者誘導等のお手伝いをしていただきました。子どもたちもたくさんの声援を受け、安心して最後まで一生懸命走り抜くことができました。

3点目は、学校教育課の報告と重複してしまいましたが、小野田中学校区3校によるリーディングDXスクールとしての取組を紹介します。

今年度、小野田中学校区3校、小野田中学校・小野田小学校・須恵小学校は文部科学省からリーディングDXスクールの指定を受け、研修を進めております。リーディングDXスクールは、GIGA端末の汎用的なソフトウェアとクラウド環境を十分に活用し、児童生徒の情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実や高度DXを行い、全国に好事例を展開するための事業です。小野田中学校が11月12日、小野田小学校が11月28日にすでに授業公開を行っております。本校は、年明けの1月29日（木）に授業公開を行う予定で、現在準備を進めているところです。

以上、小学校長会からの報告でした。

○長友教育長

はい。ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

須恵小学校の公開授業は、何を行われるのですか。

○間恵小学校長会代表

はい。2年生の国語から行う予定にしておりますので、ぜひいらしてください。

○長友教育長

地域の方々にご連絡はしているんですか。

○間恵小学校長会代表

これからします。

○長友教育長

はい。よろしく申し上げます。マスコミ発表はどのようになっていますか。

○間恵小学校長会代表

おそらくリーディングDXスクールのホームページからされるんじゃないでしょうか。どうでしょうか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

確認いたします。

○長友教育長

子どもたちも一生懸命取り組んでいるという報告も聞いていますし、先生方も一生懸命されていたということなので、ぜひその成果を発表していただきたいと思います。楽しみにしております。よろしく申し上げます。

それでは、よろしいですか。中学校長会竜王中学校、小野校長先生申し上げます。

○小野中学校長会代表

中学校の状況について、3点報告を申し上げます。

1点目は、生徒会発足についてです。12月上旬に、生徒会役員選挙が行われ、各校の生徒会役員が決定しました。各校において、本年度の取組や伝統的な取組、校風などを生徒会に継承するため、新旧生徒会役員が、引継ぎを行うとともに、冬休みにはリーダー研修会、冬休み明けには引継式や任命式を始業式に合わせて予定しています。

2点目は、学期末保護者懇談会についてです。11月末に3年生は進路の関係がありますので、懇談会を校区の全ての学校で行っております。2期制の竜王中学校以外については、学期末に1、2年生が実施しました。3年生については、11月末に加えて再度実施した学校もあります。個々の生徒の頑張りや成長を振り返り、成長を認めるとともに、改善が必要な点について、これからの取組について話し合いを行っています。3年生は、懇談会で、進路について生徒・保護者・担任で話し合い、進路希望をほぼ確定しています。3年生は今年度入試の出願方法が変わっておりますので、非常に丁寧に指導しているところです。

3点目は、学校評価についてです。前期の学校評価以降の取組に続いて、2回目の学校評価アンケートを生徒・保護者、教職員に対して実施しました。アンケート結果を集計し、成果と課題を検証しているところです。本校におきましても今日の運営委員会等で、成果について共通理解を図ったところです。その後も職員会議等にもかけて確認をしていき、具体的な手立を探り、取組の見直しにつなげてまいります。最後の学校運営協議会では、これらを報告し、関係者の評価を受け、学校評価書の作成をしていく予定です。

以上で、中学校の報告を終わります。

○長友教育長

ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

○河村委員

はい。

○長友教育長

はい、河村委員。

○河村委員

質問なんですけど、学校の評価というのは生徒・保護者・先生方だけですか。何%返ってくるんですか。

○小野中学校長会代表

今回本校では、180家庭のうち120家庭の回答をいただきました。最初にお願いの学校メールを送って、これはインターネット上で回答していただく形になっておりまして、締切期限が迫りましたら再度保護者の方にメール配信して協力をお願いしているところなんですけど、なかなか100%というのは難しいところです。

○河村委員

180の内120もあれば良い方じゃないのでしょうか。これは保護者ですよ。

○小野中学校長会代表

はい。

○河村委員

生徒は学校で書かせるんですか。

○小野中学校長会代表

そうですね。生徒は基本的に学校でやりますので。

○河村委員

では100%ですね。

○小野中学校長会代表

これもなかなか100%が難しいのが、不登校の生徒もいますので回答を得られないというのが現状です。教職員については100%です。

○河村委員

アンケートの内容は毎年同じですか。

○小野中学校長会代表

経年変化を見ることもしますので、内容はほぼ同じ、もしくは年によって変えていく。本校で言いますと、ずっと同じようなかたちで進めていきましたけど、中学校区小学校とも連携して改定を進める予定としています。

○河村委員

各校共通ではなくて、各学校の色を出してもいいんですね。その採点という評価をするのは校長先生ですか。

○小野中学校長会代表

最終的に学校評価書というものについて反省等するのは校長ですが、学校運営協議会という場で外部の学校関係者の方に評価をいただきます。それを受けて最終的にまとめるのが私ども校長の仕事になります。

○河村委員

それは生徒へのフィードバックはするんですか。

○小野中学校長会代表

生徒はチャレンジ目標を学校評価アンケートの結果をもとに決定していますので、これについてはフィードバックをしております。

○河村委員

評価は年によって違うでしょうけども、少しずつ改善しているのか現状維持なのか。どんな感じですか。

○小野中学校長会代表

本校で言いますと、取組によって上昇していくものもありますし、やはり今年度の取組は少し甘かったなというときには、やっぱり下がることも実際にあります。ですから年々上がるばかりというわけでもありません。

○河村委員

私の勝手なイメージですけど、校長先生によって全然違ってくるなというイメージをするんですけど、小野校長先生自身どんな感じですか。

○小野中学校長会代表

私自身が胸を張って言えることはございませんが、本校で言いますと、今年度は家庭学習の取組に生徒と教員が一緒になって取り組んでいるものがあるんですけども、これについては昨年度と比較しても15%近く「取り組んでいます」という子どもたちが、保護者でいうと子ども程ではないんですけど、5%から10%の方は子どもたちが家庭で勉強を頑張っていますと回答され、成果が出ています。

○河村委員

ありがとうございます。小学校の方も評価はあるんですか。

○間恵小学校長会代表

あります。同じようにやります。評価項目が15項目ぐらいあって、経年変化を見ていくんですが、やっぱりその年の児童の実態、学校の課題によって、その年に重点的に取り組んでいこうという項目があります。そこを特に意識して取り組んでいくので注意していますが、経年傾向を見ていく項目もあれば、重点的に絞って取り組む項目については特に良く分析をしていくと思います。アンケート項目全部大切なんですけど、その中でも重点を絞って行ってます。

○河村委員

それは全部フィードバックしてもあまり意味がないと思われませんか。

○間恵小学校長会代表

いえ、あります。

○河村委員

児童には言われますか。

○間恵小学校長会代表

言います。児童にはそのアンケート項目に関連している取組を、「〇〇週間をします」とか「〇〇対応をします」というように取り組んで、結果、こういう風にみんな良くなったねとフィードバックをしています。先日教育長さんに言われたんですが、それを子ども自身にアウトプットさせればもっといいというご意見をいただきましたので、それを今後していかなければいけませんね。

○河村委員

アンケートの回答をした人が、まず、フィードバックを見るのが大事ですよ。返してもらった方が自分のものとして考えるので私はそっちがいいと思います。

○長友教育長

はい、ありがとうございます。

○嶋本委員

はい。

○長友教育長

はい、嶋本委員。

○嶋本委員

学校評価に関する質問ですが、アンケートというのは今聞いたところでは保護者・教職員・生徒で、学運協も入るといった話だとは思いますが、自校内部評価と外部からの第三者評価というような観点で見ると、どこの部分が自校でどこからが外部評価になっているのでしょうか。

○小野中学校長会代表

内部としましては教職員までと捉えており、学校関係者（学運協）の方々が外部の評価と捉えています。

○嶋本委員

最終的には、評価の可否を判断することはあるのでしょうか。今年度あるいは3年に1回とかだったら3年に1回でこの評価については非常に良く運営されているとか、教学マネジメントが上手くいっているとか、そういう評価は最終的にはおこなわれますか。

○小野中学校長会代表

はい。毎年最後の学校運営協議会で各項目について協議をしていただき、その協議によってAからDの4段階で評価していただいております。

○嶋本委員

その成果に基づいて、PDCAサイクルを回す仕組みになっているんですね。

○小野中学校長会代表

はい、そうです。

○嶋本委員

はい、ありがとうございます。

○長友教育長

今年度から校長先生のマネジメントにつきましては、逐一研修をしております。課題に対しての現状分析等につきましては、いろんな資料を使いながら重点的な取組を今年度はされています。

よろしいですか。それでは、以上で各課からの報告を終わります。

次回の会議日程

○長友教育長

それでは、次回会議日程について教育次長よろしくお願いたします。

○矢野教育次長兼教育総務課長

はい。申し上げにくいんですが、先ほどのリーディングDXスクール公開授業の日程とかぶっているんですが、1月29日（木）14時00分から予定しております。1月の定例会において、給食の試食会を行いますので、それを見越して学校給食センターでの開催を予定しております。時間も多少の調整はできると思いますので、実施日につきましては1月29日でお諮りさせていただきたいと思っております。

○長友教育長

はい。皆さんよろしいでしょうか。

（「はい。」という声あり）

それでは、ここで前半を終了いたします。どうもお疲れ様でした。

15時09分休憩

15時13分再開

議案第33号 学校運営協議会の委員の任命について

○長友教育長

それでは議事に移ります。議案第33号「学校運営協議会の委員の任命について」学校教育課、説明をお願いします。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい。議案第33号についてご説明します。

本議案は、山陽小野田市学校運営協議会規則第3条第4条の規定に基づき、校長及び教育長から共同推薦のあった者を学校運営協議会の委員として任命するものです。

令和6年4月から2年間の任期で任命している学校運営協議会委員について、追加及び役員の交代で推薦があった委員の任命になります。

以上で説明を終わります。

○長友教育長

はい。ただ今の説明につきまして、ご意見ご質問はございませんか。

（「ありません。」という声あり）

新たに追加する理由は为什么呢。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

地域学校協働活動推進委員の方が1名辞めたことで、2名体制にするということでこの方を新規で任命することとなりました。

○長友教育長

よろしいですか。

それでは議案第33号「学校運給協議会の委員の任命について」を原案どおり決することにご異議はございませんか。賛成いただける方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

ありがとうございます。全員賛成により可決されました。

報告第13号 令和6年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査結果について(概要)

○長友教育長

次に報告第13号「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校生徒指導上の諸課題に関する調査結果について(概要)」について、学校教育課説明をお願いします。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

報告第13号について説明します。

令和7年10月29日付けで発表された令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査について報告いたします。

本調査は、児童生徒の問題行動や不登校等についての状況を調査・分析することにより、教育現場における生徒指導上のカテゴリをより一層の充実に資するものとすると共に、その実態把握を行うことにより児童生徒の問題行動等の未然防止・早期発見・早期対応や不登校児童生徒への適切な支援につなげていくためのものです。本市では、山陽小野田市立の小・中学校を対象に、令和6年4月1日から令和7年3月31日を調査対象期間として、暴力行為・いじめ・長期欠席について調査をしたものです。なお、令和6年度の児童生徒数は、小学生2,879名、中学生1,503名、合計4,382名となっております。

まず暴力行為についてですが、小学校33件、中学校25件、合計58件で、1000人あたりの発生件数では13.2件となっており、国や県よりやや高い水準になりますが、市全体としては減少に転じております。成果としましては、中学校における生徒間暴力や器物破損が大きく減少しています。こうした結果の背景としては、中学校における落ち着いた学習環境の醸成や発達支持的生徒指導による衝動的な行動の抑制が挙げられます。

また、課題としましては小学生の生徒間暴力の増加が挙げられます。生徒間暴力の増加については、複数回の暴力行為を行った児童が複数いることが件数増加の主な原因となっております。

次にいじめについてですが、認知件数が小学校で103件、中学校では56件、小中学校合わせて159件となっており、1000人あたりの認知件数は36.3件で国の61.3件よりは低くなっておりますが、山口県の31.7件より高くなっている状況です。内容を見ると、日常的な衝突によるものが159件中133件で、全体の83.6%を占めており、芽が小さいうちにいじめとして積極的に認知し対応している状況です。加えて、3か月後の解消率が159件中139件で87.4%となっており、積極的な認知・対応に加え、発見後の指導や人間関係の調整が効果的に機能し、解消率の高さにつながっているものと考えられます。小学校においては日常的な衝突の中でも、遊びの延長・悪ふざけ、言葉の暴力が多くなっています。小学生にありがちなごっこ遊びのエスカレートや過度なスキンシップ、身体的特徴や失敗の揶揄、人格否定といった暴言、仲間外れ等の排他的なもの、

あるいは同調とった小学生特有の状況が主な原因として挙げられます。また小学校高学年から中学生になるとSNSのトラブルが発生しております。SNSについては、端末利用の広がりや目の届かない所で行われることによる拡散や発見の遅れが挙げられます。

最後に、不登校についてですが、不登校児童生徒は全国的に増加傾向にあり、本市の不登校児童生徒数は、令和6年度実績で小学校58人、中学校で90人、小中学校合わせて148人となっており、1000人あたりの出現率は33.8人で、国の38.6人や山口県の38.3人より少ない状況です。本市では、令和2年度を境に3年連続で増加していましたが、令和6年度はわずかながら減少に転じています。

こうした結果の背景には、発達支持的生徒指導による児童生徒に寄り添った対応や多様な学びの場の提供が考えられます。課題としては、学年が上がるにつれて不登校児童生徒数が増加傾向にあり、小学校から課題を抱えている子に加え、中学校では様々な理由や背景を抱えた新規の不登校が積みあがってきている状況があります。

不登校の要因は、多種多様で様々ですが、調査報告では、メディアコントロールを含めた生活習慣の乱れや人間関係も含めた環境への不適応、このほか、近年の特徴として無気力や漠然とした不安、はっきりとした理由がないといった理由が挙げられています。調査の結果を踏まえ、問題行動や不登校等の諸課題に対応するため、発達支持的生徒指導に基づき、スクールワイドPBS（ポジティブ行動支援）・脱教室マルチリートメントの取組等、あるいは教育支援センター「ふれあい相談室」や校内教育支援センターの充実による多様な学びの場を提供することにより、児童生徒に寄り添った心理的安全性の高い学校づくりを推進しているところです。

以上です。

○長友教育長

それでは、ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問はございませんか。

○河村委員

はい。

○長友教育長

はい、河村委員。

○河村委員

暴力行為の事例なんですけど、一人ひとりには対応すると思うけど、二人呼んで同時に聞きながら対応されることもあるんですか。対応の仕方の方針は決まっているんですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

まずは、それに至った経緯をしっかりと聞き取りを行っております。原因を特定するというか、ごっこ遊びの延長、例えば警察とか泥棒とか役をやったときに警察の役になった、どうやって決めるかはわかりませんが、泥棒の子の背中の上に乗った等、遊びの延長で暴力につながったということもあります。暴力が起こったときは、被害あるいは加害の子たちにしっかりと話を聞いて、なぜそうなったのか、なってしまったのか気持ちを汲取りながら話を聞いて、保護者の方も巻き込みながら学校で起こったときは学校で指導しています。

○河村委員

私のことになりますが50年以上も前ですが、修学旅行前に同級生とのいざこざで怪我をしてしまって行けなかった苦い思い出があります。そのときに先生が何をしてくれたかということ、たぶん双方から話を聞かれたと思いますが、私は聞かれた記憶がないんですよ。ただ、私の両親が黙っていない

ので学校とやり取りしていたと思うんです。彼とはそれきり口を利くこともなく疎遠になってしまって、相手も傷が残ったし、私も傷が残ってしまったので、その当時二人を呼んで仲介のような形でまとめてもらったと、今となっては思います。あの頃は思春期でかっとなったら男の子だからあのような行為に出してしまうなと理解できるんだけど、その当時は今ほど冷静に判断できなかったです。私の体験からすると、暴力の場合はある程度双方で話し合っただけで仲介するような対応が良いのではないかと思います。男の子は暴力も多いと思うので、私としては周りを持って同時に仲介までもって行ってもらえれば良いなと思います。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい、ありがとうございます。

力関係に差があるとか、本当にケースバイケースだと思うので、また各学校に暴力行為があった場合には確認して対応を考えてまいりたいと思います。

○竹田委員

はい。

○長友教育長

はい、竹田委員。

○竹田委員

不登校のところで、校内教育支援センター（ステップアップルーム・やすらぎルーム）とありますけども、現在どこの学校にステップアップルームがあって、やすらぎルームがどの学校にあるのか教えていただけますか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

ステップアップルームは県の事業で教職員がつくという形でやっています。高千帆中学校と厚狭中学校にあります。小学校については県の事業はありませんので、自校努力でやっています。今やすらぎルームとして教室を配置しているのは高千帆小学校です。その他の学校もやすらぎルームというルームは設けていないけれど、例えば保健室で教育相談と同じような対応をしていたり、あるいは空き教室を利用していたり、少し前までは活発に利用されていましたがコミュニティールームを活用したり、地域・保護者の方にも子どもの姿を見ていただき、そのような形で教育委員会の方からも積極的にやすらぎルーム・ステップアップルームのような子どもの居場所、安心できる場所の確保については各学校にお願いしているところです。

○竹田委員

学校訪問のときにいろんな話を教育長がされるので、その辺りは進んでいるんだろうとは思いますが、お部屋がないところもあり、各学校に任せるのも大事ですけど、いつまでにかできるのかな、できなければできないでいいのかなとおもうところがあります。人材がいるかないかも影響してくるとは理解しますが、この件については少し早く進めていった方がいいのではないかと思います。だからといって、どうしたらいいのかが見えてこないの今後どうされるのかなと思案しています。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

各学校に地域性それから保護者からのお願い事があって申し上げますと、推進委員の方や学校運営協議会、家庭教育支援チームの方にお声がけしたりとか、校長先生を中心に今動かれているところだと思います。教育委員会としては早急にと考えていますし、今年度の年度初めの校長会でありますが、そちらの方で担当者の方から話をしているところです。今言われたように小学校は人間的なものがありませんので、地域の方のご協力を得ながら、そこに行けば地域の方がいて普通の教室じゃなく

て違う空間になってほしいですね。ただ特別教室で授業を受けるだけなら居場所にならないので、本
当にくつろげる場所、話を聞いてもらいエネルギーを溜める場所、そんな所が作れたらいいと思っ
ています。

○竹田委員

はい、よろしくお願いします。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

はい、ありがとうございます。

○長友教育長

今の校内教育支援センターについては、升谷課長が言ったように4月時点で地域の人に言っていま
す。ケアまではできなくてもそのような機能ができるようにと、中には校長室を開放して、校長室に
子どもがいるというようなこともございますが、出来れば部屋を1つ確保するという事で再度学校
に指示をしているところです。人の配置というもあるので、できるところから少しずつやっていって
広げていこうと今確認をしています。

○竹田委員

はい、ありがとうございます。

○嶋本委員

はい。

○長友教育長

はい、嶋本委員。

○嶋本委員

暴力行為のところで聞きたいのですが、最近ある経済誌で特に低学年の暴力がすごく増えていると
いう記事を読んだんですけど、ここでは前年度との比較がありますが、例えば5年・10年ぐらいで
は低学年の暴力発生件数はどんなふうに推移しているのでしょうか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

今手元に学年別の資料は持っておりません。ただ肌感覚としては、口よりも先に手が出る子が増え
てきたのかなとは思っています。言葉で説明する前に動いてしまう子が増えた気がします。ただ実数とし
てどれくらい増えたかとか、あるいは実際はそんなことないのかはわかりません。

○嶋本委員

現場で件数が増えてることで先生が困っているとか、保護者の間で問題になっているとかなければ
いいのかなと思っていますが、幼稚園の延長線上で小学校になっても幼稚園感覚で低学年の暴力
が増えてきているんだというような分析に至ったので、今聞かせていただきました。

○長友教育長

よろしいですか。

○末永委員

はい。

○長友教育長

はい、末永委員。

○末永委員

いじめについてですが、どの学校でもよく聞く盗難ですかね、靴が無くなったとか、筆箱が無くな
ったとか明らかに失くしそうでない物が無くなるというのは毎年よく聞くんですけど、それはいじめ

にカウントされているのか、それともどこにもカウントされていないのか、どのようになっているんですか。

○升谷学校教育課長兼心の支援室長

いじめの定義があって、一定の人間関係があるものが心理的な、あるいは肉体的な苦痛を与える、与える疑いがあって、当該の子どもたちが苦痛に感じているものをいじめと認知しているところです。物が無くなったという行為が不特定多数によるものなのか、あるいはその子だけがある一定期間何度も無くなっているのか、状況によっていじめにカウントしていたり、していなかったりするのではないかなと思います。

○末永委員

はい、ありがとうございます。

○長友教育長

よろしいですか。

それでは、報告第13号「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について（概要）」について、承認いただける方の挙手をお願いします。

（全員挙手）

ありがとうございます。全員賛成により承認されました。

報告第14号 第2回山陽小野田市人権教育推進協議会の結果について

○長友教育長

続きまして、報告第14号「第2回山陽小野田市人権教育推進協議会の結果について」事務局説明をお願いいたします。

○山本社会教育課長

報告第14号について説明いたします。

令和7年10月31日（金）市民館におきまして、「令和7年度第2回山陽小野田市人権教育推進協議会」を開催いたしました。出席者は、委員22名中15名の出席で執り行いました。

初めに、12月6日（土）市民館で開催される「ヒューマンフェスタさんようおのだ～人権を考える集い2025～」の実施要項について説明し、当日の運営について人権教育推進委員の役割分担等について確認を行いました。

次に令和7年度人権に関する作品募集に応募があった標語159点、ポスター29点について委員投票による作品審査を行いました。標語については、小学校・中学校の部と高校・一般の部、ポスターについては小学校の部・中学校の部からそれぞれ1点ずつ優秀賞を選出いたしました。

最後に、次回同協議会で取り扱う議題について説明し、各校区の状況を取りまとめ、意見交換することをお伝えしました。

報告は、以上でございます。

○長友教育長

それではこの件に関しまして、ご意見ご質問等ございましたらお願いします。

よろしいですか。それでは、報告第14号「第2回山陽小野田市人権教育推進協議会の結果につい

て」をご承認いただける方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

ありがとうございます。報告第14号は、全員賛成により承認されました。

報告第15号 第2回山陽小野田市社会教育委員会議の結果について

○長友教育長

続きまして、報告第15号「第2回山陽小野田市社会教育委員会議の結果について」事務局説明をお願いいたします。

○山本社会教育課長

報告第15号について、ご説明いたします。

令和7年11月19日(水)出合地域交流センターにおきまして「令和7年度 第2回山陽小野田市社会教育委員会議」を開催いたしました。出席者は、委員14名中10名の出席で執り行いました。議題として初めに、次年度定期的に取り組む計画をしている放課後子ども教室について、これから社会教育委員の皆様からご意見をいただくため、事業の概要について説明し、その後出合地区で実施している放課後子ども教室「出合いちょうっこ」の活動を視察していただきました。

当日は、6月に植え、秋に収穫したさつまいもを使って子どもたちがお菓子作りに取り組む様子を見ていただきました。その後、出合地区担当のコーディネーターから、コーディネーターの役割、活動する上で大切にしていること、課題といった3つのこと、さらに、この放課後子ども教室を楽しみにしている子どもたちがいることが一番励みになっていること、また、子どもたちの活動を見守る地域の安全管理人も楽しいと言ってくれていることから、地域の皆が笑顔になれるように活動を進めていきたいとお話を伺いました。

委員からは、放課後子ども教室のような子どもの居場所づくりを地域課題と捉え、RMO(地域運営組織)としてどのように関わっていくことができるのか、また、現在行っている地域性のある児童館クラブはどうなるのか、さらに、実施する場所は学童が行われている場所と近い方がいいのではないかという質問をいただき、事務局で応答いたしました。

最後に、その他のところで、11月20日から21日に行われる「第47回中国・四国地区社会教育研究大会山口大会」の委員の参加について、また、次回3回目の議題について説明を行いました。

報告は、以上でございます。

○長友教育長

それでは、ただ今の報告に関しまして、ご意見ご質問等ございましたらお願いいたします。

よろしいですか。それでは採決いたします。報告第15号「第2回山陽小野田市社会教育委員会議の結果について」をご承認いただける方の挙手をお願いします。

(全員挙手)

はい。報告第15号は全員賛成により承認されました。

県費負担教職員の人事について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項ただし書きの規定により、非公開

県費負担教職員の兼職及び他の事業等の従事許可について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項ただし書きの規定により、非公開

市職員の人事について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第14条第7項ただし書きの規定により、非公開

その他

○長友教育長

その他になりますが、何かございますか。
(「ありません」という声あり。)

閉 会

○長友教育長

これで本日予定されておりました議事は全て終わりました。以上を持ちまして会議を閉じます。皆様お疲れ様でした。

15時46分閉会

山陽小野田市教育委員会会議規則第19条の規定により、ここに署名する。

令和7年 12月 25日

教 育 長

印

署 名 委 員

印

署 名 委 員

印

会議録を調製した職員

印